

れきしみち

2023.7
No.129

P4… 連載 大河ドラマ「どうする家康」にむけて
「安城譜代調査速報－三河本多一族－」

P6… 連載「安城歴史散策 風を感じて歴史を歩く15」

P7… 特別展関連イベント・夏休みイベント紹介

P8… ナイトミュージアム紹介
市民ギャラリーよりお知らせ

P2

特集

徳川の支柱

特別展 安城譜代一

酒井氏
左衛門尉家
雅楽頭家

伊予札桶側菱綴胴具足 酒井忠利所用
(小浜市指定文化財 個人蔵 小浜市寄託)

朱塗色々威二枚胴具足 酒井家次所用
(致道博物館蔵)

ANJO CITY MUSEUM OF HISTORY
安城市歴史博物館



黒塗軍配団扇(致道博物館蔵)



夜の博物館に行こう！ 「ナイトミュージアム」

8月25日(金)～8月27日(日)

8月25日(金)～8月27日(日)の3日間は安城市歴史博物館、安城市民ギャラリー、
安城市埋蔵文化財センターを夜8時30分(入館は夜8時)まで開館します！(※通常は夕方5時まで)
期間中は様々なイベント、アート企画、博物館ナイトツアーをおこないます。
ぜひ夜の博物館にお越しください！

さとのマルシェ
8/26(土)、8/27(日)
16:00～20:30
飲食のキッチンカーや
雑貨やクラフトの店舗が出店
[会場] 安祥城址公園
協力: office JAPANICATION

同時開催

8/26
(土)

8/27
(日)

日没～20:30 ※雨天時内容変更あり

[会場] 東尾八幡社、安祥城址公園 一角

主催: 東尾八幡社運営委員会

已書体験会&缶バッジづくり 14:00～17:00

毎年人気の ドキドキ・わくわく 博物館ナイトツアー

夜の常設展示をめぐります。昼間とは違ったドキドキ感をお楽しみください。

[開催日] 8月26日(土)、27日(日)

①18:00～ ②18:30～

③19:00～ ④19:30～

[会場] 歴史博物館2F 常設展示室

[定員] 各10名(先着順)

[参加費] 1人200円(ミニ灯笼のお土産付き)

[対象] 3才以上

申込み 8月6日(日)9:00～電話受付開始



安城太鼓会ほだら 和太鼓演奏

「安祥合戦」など安城オリジナル曲を演奏。
迫力あるステージをお楽しみください。

[開催日] 8月26日(土)

19:00～19:30

[会場] 安祥城址公園

※雨天中止

[出演] 安城太鼓会ほだら

申込み 当日受付



『酒井の太鼓』伝説に挑戦 ～和太鼓を体験してみよう～

城を守っていた酒井忠次が太鼓を威勢よく打ち鳴らしたところ、驚いた敵が退散したという「酒井の太鼓」物語にちなみ、和太鼓の体験会を実施します。

[開催日] 8月26日(土) ①16:30～ ②17:30～

[会場] 安祥城址公園※雨天中止

[定員] 各回15名(先着順)

[出演] 安城太鼓会ほだら

[参加費] 無料

[持ち物] 飲み物・帽子

申込み 当日受付



※定員数・開催方法や日時・内容等を変更する場合がありますので、
最新情報はHPIにてご確認ください。

謎とき

マイブंकエストー鹿乗王と癒しの甕ー

考古学などとき。弥生時代にカノリのムラを
治めた偉大な王の甕を見つけ出そう！

[開催日] 8月25日(金)・26日(土)

18:00～19:30受付

[会場] 安祥城址公園ほか

[参加費] 1キット/100円

[難易度] 小学校3年生以上

申込み 当日受付



和紙で風船アート

膨らませた風船に和紙を貼り、丸いランプ
シェードを作ります。

[開催日] 8月25日(金)

①17:30～ ②18:15～

③19:00～ ④19:45～

[会場] 市民ギャラリー 創作実習室

[定員] 各16名(先着順)

[参加費] 1個200円

申込み 当日17:00～整理券配布 ※なくなり次第終了



土器ドキ晩ゴハン

火きり杵と臼で火おこしし、復元弥生土器で
ご飯を炊きあげます。豚汁も配布します。

[開催日] 8月27日(日) 17:30～19:30

[会場] 歴史博物館前 ピロティ

[定員] 家族かグループ12組

(1組5名まで/抽選)

[参加費] 1人100円

申込締切 8/9(水)まで右記QRより
お申し込みください



申し込みはコチラ

お問合せ／お申込み 安城市歴史博物館 TEL:0566-77-6655

安城市民ギャラリーよりお知らせ

安城市民ギャラリー開館20周年・瀬畑亮アーティスト活動25周年記念
瀬畑亮ゼロテーブルアート®展2023in安城



未来を創る社会的距離

2018年に当館で開催し、大好評をいただいた「瀬畑亮ゼロ
テーブルアート®展」が5年ぶりに帰ってきます。
この5年間、様々な制約により十分な活動ができなかった
一方で、作家としての表現や思想にも大きな変化があったと語る
瀬畑の、独創的でありながらも幅広い世代の方に楽しんでいた
だけの「ゼロテーブルアート®」の世界をご堪能ください。

[開催期間] 令和5年8月5日(土)～9月3日(日)

[休館日] 月曜日

[時間] 9:00～17:00

(入館は16:30まで、最終日の観覧は16:00まで)

※8月5日(土)は開会式開催のため10:00からの観覧と
なります。

※8月25日(金)～8月27日(日)

9:00～20:30まで開館延長(入館/20:00まで)

[会場] 市民ギャラリー展示室全室

[観覧料] 500円(中学生以下無料)

安祥文化のさと

「安祥文化のさと」とは安城市にある松平氏四代50年の
居城跡を整備した安祥城址公園一帯の名称です

[全館共通事項]

住 所 / 〒446-0026 愛知県安城市安城町城堀30番地
休館日 / 毎週月曜日(祝日の場合は開館)、年末年始(12/28-1/4)

安城市歴史博物館 開館時間 / 9:00～17:00
TEL:0566-77-6655 FAX:0566-77-6600

安城市民ギャラリー 開館時間 / 9:00～17:00
TEL:0566-77-6853 FAX:0566-77-4491

安城市埋蔵文化財センター 開館時間 / 9:00～17:00
TEL:0566-77-4477 FAX:0566-77-6600

安祥公民館 開館時間 / 9:00～21:00
TEL:0566-77-5070 FAX:0566-77-6062

公式HP、SNSもご覧ください

安城市歴史博物館

URL / <https://ansyobunka.jp/>



徳川の支柱

酒井氏

左衛門尉家
と
雅楽頭家

徳川の名門 左衛門尉家

家康の祖、松平氏の時代から重臣とされる酒井氏。左衛門尉家の忠次は、家康自立後から深い関係をもち、三河統一後は東三河を束ねる役割を担っていました。その後も名だたる武将との外交を任されるなど重用され、その孫忠勝の代には出羽国庄内藩主として、その地を長く治めます。

一方、雅楽頭家には安城松平氏四代清康から仕えていたとされる政家（正親）がいます。政家は家康独立後早々に西尾城を任せられ、その後息子の重忠・忠利が活躍します。さらにそれぞれの息子忠世・忠勝は三代将軍家光の時代に要職につき、幕府の草創期を支えました。今回の展示では、異なる活躍をした酒井二家の資料を紹介し、その出自の謎や、二家それぞれの活躍に迫ります。

令和5年
7月15日(土)～
8月27日(日)
[観覧料] 600円 ※中学生以下無料
※団体(20名様以上) 480円
安城譜代1・2観覧セット券1,000円 各種特典あり
「安城譜代1 酒井氏」7/15(土)～8/27(日)
「安城譜代2 三河本多一族」9/16(土)～10/29(日)



一、酒井氏の出自

文化九年（一八一二）に江戸幕府によって編纂された『寛政重修諸家譜』には、酒井氏の出自について、左衛門尉家と雅楽頭家が分かれた理由は明らかにされていません。また、それぞれの家に残された系図にも差異があります。酒井氏の祖が松平氏初代親氏の血縁者であることは記されているものの、忠次や政家に至るまでの名前が異なっていたり、省略されていたりと表記のばらつきが確認できます。

資料上では、享禄年間に酒井与一郎、酒井藤七郎長勝などの名前が大樹寺文書にあらわれ、天文四年（二五三五）四月二十九日の大樹寺多宝塔身柱銘写

二、家康のもとで

雅楽頭家の政家の名は天文十二年の書状から確

に酒井与七郎の名前がみられます。雅楽頭家の当主は与四郎を名乗っていることから「与」のつく名前は一族かと思われますが、詳細は不明です。また、大樹寺文書の中に確認できる井田九郎兵衛という人物は、左衛門尉家と関係があったと考えられます。これらの酒井氏がどの系統かは定かではありませんが、井田（岡崎市）周辺に力を持っていたことが推察されます。

しかし、残っている資料も少ないため、同時代資料から酒井の系譜を正確に示すことは困難です。

との外交役としても活躍しました。天正三年（一五七五）の長篠の戦いの前哨戦で、忠次は鷹ヶ巣攻めで大きな戦功を挙げ、織田信長にも褒められたように後世の記録にも多く記述されています。天正十六年に家督を息子家次に譲ると忠次は京都の桜井屋敷に隠居し、余生を過ごしました。

天正十八年、家康の関東移封により、家臣たちも関東へ移ります。左衛門尉家の家次は三万石で下総臼井（千葉県佐倉市）へ移封されました。雅楽頭家の重



黒塗軍配団扇（政道博物館蔵）

三、譜代の名家酒井家

忠（政家の息子）は武蔵川越（埼玉県川越市）へ一万石で移封されます。川越では重忠の息子忠世も五〇〇〇石、弟忠利も三〇〇〇石賜り、家でいえば一万八〇〇〇石ということになります。

左衛門尉家の家次は関ヶ原の戦いの後、上野高崎（群馬県前橋市）に五万石で移封されます。これは、まだ豊臣大名が残る中、外様の抑えや越後高田（新潟県上越市）に入った家康の息子松平忠輝を補佐するためともいわれています。大坂の陣の後、忠輝が改易されると家次は越後高田に一〇万石で移封されました。次の忠勝の代に信濃松代（長野県長野市）へ、元和八年（一六二二）、出羽庄内（山形県鶴岡市）に一三万八〇〇〇石で移封されました。これは東北の外様大名の抑えとして出羽山形（山形県山形市）に移封された岳父の鳥居家と共に配されたとされます。左衛門尉家は庄内藩主として幕末まで続きました。

雅楽頭家の重忠は関ヶ原の戦いの後、上野厩橋（群馬県前橋市）に三万三〇〇〇石で移封されます。息子忠世の代に上野厩橋で一二万石となります。忠世は将軍秀忠や家光の老中として幕閣筆頭となりました。後の忠恭の代の寛延二年（一七四九）、一五万石で播磨姫路（兵庫県姫路市）に移封されます。雅楽頭家は老中・大老を輩出する姫路藩主として幕末まで続

きました。

また重忠の弟の忠利も大名になります。忠利は武蔵川越に二万石で移封された後、息子の忠勝の代に一〇万石となり、若狭小浜（福井県小浜市）へ一二万三五〇〇石で移封されました。忠勝も将軍家光・家綱に重用され老中、その後大老にもなりました。大老になった後、従四位上に叙位されました。従四位下に叙位される大名は重職につくか名家のみであり、従四位上はまれなことでした。外国との外交にも携わり、朝鮮からの書翰が残されています。將軍の信頼も厚く、家光はたびたび忠勝の家（江戸牛込屋敷等）を訪れるほどでした。小浜藩も幕末まで続きました。雅楽頭家の加増には、忠世や忠勝が老中や大老となったことによるものとされます。

江戸時代を通して左衛門尉家は石高一〇万石を越え名門の家として、同じく一〇万石以上の雅楽頭家二藩は老中・大老を輩出する家柄として存続しました。



寛永20年10月14日 口宣案
（小浜市指定文化財 小浜市酒井家文庫蔵）

初期幕政の重鎮 雅楽頭家



酒井重忠画像（前橋市指定重要文化財 源英寺蔵）

幕府を支えた左衛門尉家・雅楽頭家の家格は二家の経歴そのものが築いたものです。今年は大河ドラマの影響もあり、家康だけではなく、家臣団にも関心が寄せられています。ぜひ、酒井氏二家の歴史をたどりに展覧会へお越し下さい。

安城譜代調査速報 ― 三河本多一族 ―

令和五年度、安城市歴史博物館では、新たな展示テーマ、三河の戦国・織豊期を対象とした「安城譜代」を設定し、シリーズ化して展覧会を開催します。第一弾の「徳川の支柱 酒井氏」展に続き、九月十六日からは「三河本多一族」展を開催します。開催に向け、現在各地に残る資料の調査を進めています。

本多氏の出自

本多氏は松平宗家が安城城を拠点にしていた時代から仕える「安城譜代」です。『寛政重修諸家譜』などの系譜類は、本多氏先祖の助秀が豊後国本多（大分県）に居住したため、本多を名乗るようになったと伝えています。南北朝時代には、助秀の子助定が足利尊氏より尾張国横根・栗飯原に所領を与えられ、後に三河に移ったとされています。

現在大河ドラマ「どうする家康」では本多忠勝や本多正信の活躍が描かれていますが、本多氏はいくつかの系統に分かれており、各家が家康のもと、随所で活躍をみせています。全ての本多家を取り上げたいところではありますが、本展ではそのうち著名な五家に焦点を当ててご紹介します。

本多氏の系譜

本多氏の中で一番有名なのは、やはり本多忠勝ではないでしょうか。忠勝の一族は古くから松平

どを調査し、三河以来の家臣に関する記述の有無を確認しました。

作左衛門家調査

各家の資料は、必ずしも一箇所にまとまって残っているわけではありません。今年四月と五月に、茨城県取手市および福井県越前市にて作左衛門家に関する資料調査を行いました。

本多重次は晩年を下総井野（茨城県取手市）で過ごしており、当地に墓所やゆかりの品が残っています。重次菩提寺の本願寺には、重次が着用した甲冑や、家康から拝領したとされる扇などが保存されていました。

なお一族はのちに越前丸岡藩主となるものの、四代重益のときに改易されたため後年取手に戻って旗本になりました。そのため取手市埋蔵文化財センターにある、本多家所領の村方文書の中にも、「御一家中御日牌領御連名帳」など重次の子孫に関する資料が伝わっています。

さらに福井県越前市には、重次甥の本多富正に関する資料が残されています。富正は家康次男の結城秀康に従って越前府中（越前市）に入り、付家老として采配を振るった人物です。越前市中央図書館が所蔵する文書には富正に関するものも多数含まれ、今回は「宛知行行分之事（本多富正知行宛行状）」や「黄門秀康公由来書 本多富正由来書」などの書状や系譜類を中心に調査・撮影を行いました。さらに越前市武生公会堂記念館に寄託されている藤垣神社資料は、甲冑や屏風など富正

氏を支えた重臣とされます。祖父忠豊は清康・広忠に、父忠高は広忠に仕えましたが、ともに安城城攻防戦で討死しました。忠勝自身も幼少より家康に仕えて数多くの軍功を立て、天正十八年（一五九〇）には家康の関東移封に伴い上総大多喜（千葉県大多喜町）に一〇万石を与えられました。忠勝は関ヶ原の戦い後に伊勢桑名藩主となりますが、その後の一族（中務大輔家は播磨姫路（兵庫県姫路市）など各地の藩主を歴任し、最後は三河岡崎藩主として定着しました）。

対して本多正信は、三河一向一揆で一揆方について戦い、一度は三河を離れました。のちに帰参すると家康の信頼を得て、息子の正純とともに参謀役として力を発揮しました。正純は秀忠の時代に失脚してしましますが、正信次男の政重は加賀前田家の家老に、また正信弟の正重の子孫ものに駿河田中藩主となっています。

また本展では残る三家、作左衛門家・豊後守家・伊奈本多家に特に注目したいと考えています。作左衛門家は、三河三奉行の一人とされ一筆啓上の手紙でも知られる重次をはじめ、重次の子で越前丸岡藩主となった成重、福井藩付家老として結城秀康を支えた重次甥の富正など優れた人物を輩出しました。代々豊後守を名乗る豊後守家は、三河では土井城や田原城の城主、江戸時代中期には信濃飯山藩主を務めました。また宝飯郡伊奈（豊川市）を本領とした伊奈本多家はのちに近江膳所

ゆかりの資料を伝えており、こちらについても現物を確認することができました。

また調査の大事な仕事の一つに、故地の写真撮影があります。今回も富正の菩提寺である竜泉寺（越前市）のほか数カ所をまわって撮影を行いました。どのように活用されるのか、会場にてお確かめください。



本多富正墓所(福井県越前市 竜泉寺)

各地で個性豊かに活躍した本多氏の姿をご紹介します。現在鋭意準備を進めています。九月に展覧会場でお待ちしていますので、ぜひお越しください。

文責：千田佑香

特別展 安城譜代二

三河本多一族

9月16日(土)
10月29日(日)

観覧料 600円
中学生以下無料

今年三月、滋賀県大津市の膳所藩資料館および大津市歴史博物館にて、伊奈本多家について調査を行いました。

膳所藩資料館は本多神社内に設置され、本多家の資料一八〇点を収蔵しています。今回はそのうち「立葵の御旗（本多神社社宝）」や「陣立屏風」などを調査しました。また大津市歴史博物館には膳所藩資料館所蔵資料のうち文書資料が寄託されており、今回は特に系譜類、家臣の由緒書・勤書・系譜系図類な

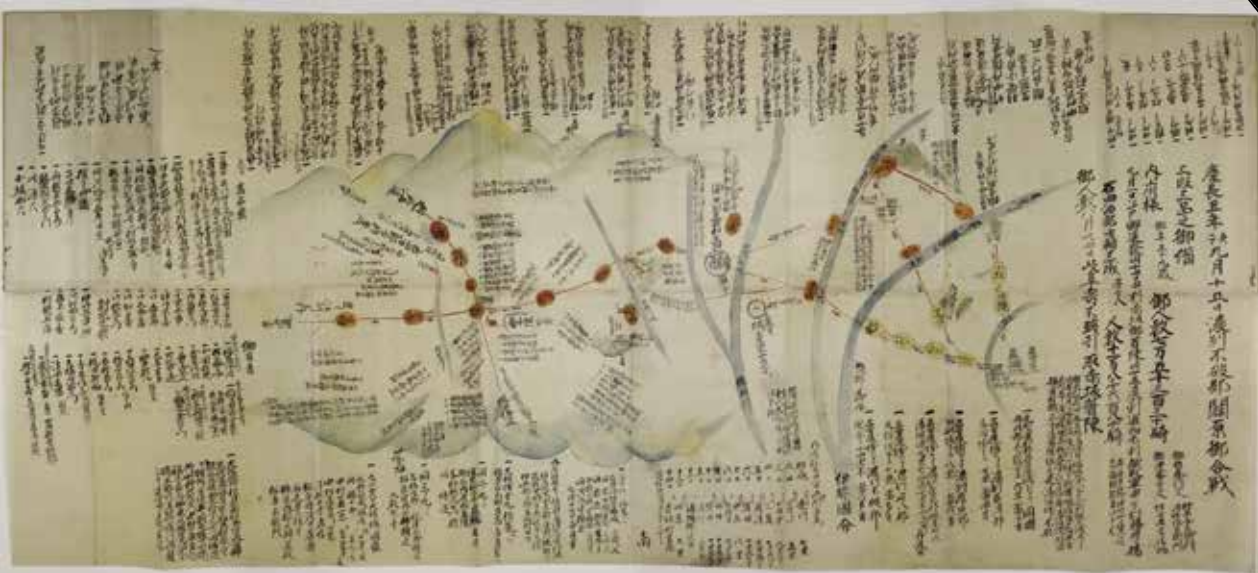


膳所藩資料館での調査風景



本多忠高墓碑

藩主になっています。これら各家の資料はそれぞれの子孫や、所領があった地の博物館、関係する寺社等に伝えられています。



関ヶ原御合戦御備図(本館蔵)

関ヶ原の戦いの陣や活躍した武将の名が記されています。本多忠勝やその息子忠朝、本多重次の息子成重や、伊奈本多家の康俊(のちの近江膳所藩主)など本多氏の名が各所に確認できます。

安城市歴史博物館 SUMMER EVENT

歴博の夏は学べるイベント、楽しいイベントが盛りだくさん！

特別展 安城譜代一

徳川の支柱

酒井氏

さえもののじょうけ

うたのかみけ

左衛門尉家と雅楽頭家

関連イベント

参加無料

記念講演会「初代忠次と酒井左衛門尉家の行く末」

[日 時] 7月22日(土) 14:00～
[講 師] 菅原 義勝氏(致道博物館学芸員)
[場 所] 歴史博物館 講座室
[定 員] 60名(先着順)
[申込み] 7月1日(土) 9:00～ 電話受付

参加無料

記念講演会「松平・徳川氏重臣 酒井雅楽頭政家」

[日 時] 8月20日(日) 14:00～
[講 師] 平野 明夫氏(國學院大学講師)
[場 所] 歴史博物館 講座室
[定 員] 60名(先着順)
[申込み] 7月30日(日) 9:00～ 電話受付

参加無料

歴博講座「酒井二家の相違」

[日 時] 8月12日(土) 14:00～
[講 師] 三島 一信(本館学芸員)
[場 所] 歴史博物館 講座室
[定 員] 60名(先着順)
[申込み] 7月22日(土) 9:00～ 電話受付

「家紋のステンシルで小物づくり体験」

特別展で取り上げる酒井氏にちなんだ家紋やイラストを、ステンシル技法で小物にあしらってみませんか。

[日 時] 7月15日(土)～8月27日(日) 9:00～16:30
[場 所] 歴史博物館 エントランスホール
[参加費] 200円～500円(材料費・小物による)
[申込み] 当日受付



クイズラリー「酒井家の名宝を探せ！」

安城譜代のなかで大きな活躍をした酒井氏の名宝を歴史博物館内で探してみましょう！

[日 時] 7月15日(土)～8月27日(日) 9:00～15:30
[場 所] 歴史博物館
[参加費] 1キット100円
※別途観覧料必要(中学生以下無料)
[申込み] 当日受付



参加無料

「『酒井の太鼓』伝説に挑戦～和太鼓を体験してみよう～」

城を守っていた酒井忠次が太鼓を打ち鳴らしたところ、驚いた敵が退散していったという「酒井の太鼓」物語にちなみ、和太鼓の体験会を実施します。

[日 時] 7月16日(日) ①9:30～②10:30～③11:30～
[場 所] 安祥城址公園 ※雨天中止
[定 員] 各回15名(先着順)
[協 力] 安城太鼓会ほだら
[持ち物] 飲み物・帽子
[申込み] 当日受付



夏休み 歴史の専門家に相談しよう！

自由研究相談会

歴史関係の自由研究について、題材や調べ方をアドバイスします。親子での参加も歓迎。



[日 時] 7月28日(金)・29日(土)・30日(日) 10:00～15:00 ※相談時間は最長30分まで

[会 場] 歴史博物館 体験学習室
[対 象] 小学3年生から中学3年生まで

[申込み] 7月8日(土) 9:00～電話受付
希望日時、調べたいテーマをお知らせください。
※相談会の枠が空いている場合、当日受付可



さとのマルシェ

飲食のキッチンカーから雑貨やクラフトの店舗まで集うマルシェを開催します。ぜひお楽しみください。

[日 時] 7月22日(土) 10:00～15:00
[場 所] 安祥城址公園 協力:officeJAPANICATION



オリジナル風鈴づくり

陶製の風鈴に好きな絵を描いて、オリジナルの風鈴を作ります。

[日 時] 8月5日(土) ①10:00～②13:00～
[場 所] 歴史博物館 体験学習室
[定 員] 各15名(先着順)
[費 用] 1個/500円(材料費)
[申込み] 7月15日(土) 9:00～電話受付



青年の教育と農村振興に尽くす

西岸寺の境内にある石像(①当初は銅像)は、当寺第一四世住職の松林了観と、その妻ちよのの遺徳をしのんで建立されました。了観は京都本山の上等教を卒業し、明治二十一年(一八八八)二八歳の時に福釜に戻りました。その頃の安城の農村部は、明治用水完成後の開墾が進み、農村工業の発達等が急激に変化し、従来の価値観や秩序が揺らぐ状況でした。了観は、農村の振興を図るには青少年の教育が必要と考え、青藍学舎(青藍夜学校)を設立しました。はじめは本堂で数人の青年男子を指導しました。その後、住民の援助を受けて校舎を建築し、修身、国語、漢文、作文、理科、英語等を中心に教えました。了観の篤志事業であり、教科書も自身が用意し、月謝も取らなかったそうです。

青藍学舎は、大正七年(一九一八)、安城町立実業補習学校の開設により閉校しました。青藍学舎では約三〇年間で約三〇〇人ほどの青年が学び育ちました。了観は他にも青藍裁縫学舎、青藍幼稚園も設立しました。妻であるちよのは了観を支えながら、了観の姉と共に裁縫、修身、家政等を女子に指導しました。

女性の生き方を模索した加藤りょう

了観が青藍幼稚園を創設する際に、彼を助け、三年間無給奉仕で子どもたちの世話をしたのが加藤りょうという女性です。りょうは自活の道を考え、豊橋の裁縫学校で学んだ後、福釜の自宅で「放香塾」という針子塾を開きました。りょうの塾には福釜及び近村から多くの子女が集まり、裁縫や茶華道を学びました。りょうは、山崎延吉の講演を聞き感銘を受け、彼を放香塾に招き、「女性の自覚」についての講演を開催し、女性にも学びの場を提供しようと努めました。また、りょうは、針子塾生より受けた月謝を蓄財して、寄付者匿名で大正十五年に福釜神明神社正面の大鳥居(②)を寄進しました。彼女の死後、教え子たちが「かたみ」という小冊子を発行しました。巻末には約五〇〇名の教え子の名が記載されました。

神明神社から南下して長田川に向かいます。



③長田川の堰(かつて水車ガラ紡に利用)

かつて長田川にあったガラ紡

ガラ紡について説明します。安城市歴史博物館の常設展示室入口付近に復元されたガラ紡績機があります。臥雲辰致が、従来の糸車を使う糸紡ぎの仕事に代わり、より効率的に行える方法を模索し改良を重ね発明したものです。辰致が発明したこの紡績機は、軽快にガラガラと運転音がすることからガラ紡と呼ばれるようになりました。明治十年の第一回内国勸業博覧会に出品されたガラ紡績機は、高い評価を受け、三河地方をはじめ全国の綿業地帯に急速に普及していききました。岡崎、豊田の水車ガラ紡、矢作川下流の船ガラ紡等三河地方で大きく発達しました。市域では福釜、箕輪、榎前、赤松あたりが中心でした。明治用水の完成後、長田川の水量が増加し、水車の新設が相次ぎ、明治二十六年には、福釜村で二五の水車があったようです。大正十年に電気がひけると、ほとんどの工場が水車動力から電力に転換しました。第二次世界大戦後の物資不足の時期にガラ紡績は増産、発展しましたが、化学繊維の普及等、時代の変化と共に、ガラ紡の技術の継承は極めて少なくなりました。現在、水車やガラ紡工場は見られませんが、長田川には所々に堰があり、かつて、これらの堰から導水路が引かれ、いくつもの水車が回転する風景が川沿いに見られたのです。

安城歴史散策

風を感じて歴史を歩く15

安城西部小学校区②

文責:片岡晃(安城市歴史博物館館長)

※定員数・開催方法や日時・内容等を変更する場合がありますので、最新情報はHPにてご確認ください。

申込み・問合せ 歴史博物館 TEL:0566-77-6655